



南からの日差しが温かな、『掛川・板倉の家』。



バランスの取れた設計をする。



『風道のある家』の心地よい吹き抜け空間。



音断と構造が一体となった『木箱の家』。

ココラボって、
こんな会社なんです。



2009 迎春特集

ココラボ、
改めて
自己紹介。

早いもので、平成18年6月からスタートした『Kokolab・通心』も本号で17号目になりました。同年4月に起ちあがった当社も、本年4月で4年目を迎えます。これまで本誌の中では私達自身について余りお話をしておりませんでした。が、当社の思いや活動をお伝えする事で原点を見つめ直し、心新たに進んでいけると思い、本号を通じて『自己紹介』をさせていただきます。

私達は静岡県藤枝市の山里に事務所を構える木造建築専門の設計事務所です。設計事務所ではありませんが、事務所に併設して大工の刻み小屋を設け、専属の大工や社員大工も共に働き、設計だけでなく現場施工も行っています。木の家造りを通して、地域木材の活用・職人技術の伝承に力を入れ、木の文化の再構築を目指すと共に、それらを通して見えてくる現代の問題、自然環境や日々の暮らしに関する事柄について再認識し、隔月発行の情報誌『Kokolab・通心』や講座『こらぼスクール』を通じて、一般の方にお伝えする活動を行っています。

現代の森林・住環境を考えた
家造りを行っています。

木材の活用と森林保護

今日の山には、戦後に大量植林されたスギやヒノキが育ち、伐採時期を迎えています。しかし植林された苗が生長する間に、輸入木材が木材消費の8割を占めるようになり、日本の人工林は伐採されずに放置されてしまいました。現在手入れのされぬ人工林は荒れ果て、バランスを失った森林は危機的な状況に直面し、国土の保全からも問題視する声が高まっています。戦後大量で低コストの住宅を造る為に外国の木材に依存していましたが、現代では、成育した日本の木材を活用していくことが、日本の森林を守り育ていくことに繋がっていくと考えられています。

『落とし込み板壁構法』

当社の大きな特徴が『落とし込み板壁構法』の家造りです。板倉構法とも呼ばれ、木材の持つ断熱性・調湿性を活かし、粘り強い耐震性能を合わせ持つ構法です。落とし込み板壁構法では

現在の人工林から最も多く生産される杉材を柱や梁に使用し、柱間に杉の厚板を落とし込んで壁を造ることで、通常の在来工法の2倍以上の木材を使用しています。木材を豊富に使用する事から、森林の活性面からも注目され、全国的にも取り組みが広がっています。また、家の骨格を伝統的な木組みとすることで大工の手仕事・技術が必要とする構法ですが、この構法を通じて大工技術の継承に寄与して行くことが出来ると考えています。木材をふんだんに使う事から高コストの家造りだと感じるかもしれませんが、落とし込んだ板壁が断熱材や構造材、仕上げとなる為、建材費や内外装の工事費が通常よりも低く、総工費として従来の在来工法程度に抑えられています。

板倉の家は木そのものに包まれた素朴で優しい表情の家となり、家族と共に呼吸し、成長していく家です。森林保全や技術の継承の目的だけでなく、住む人にとっても心地よく、安全で快適な生活をおくることが出来ると考えています。

開放的な間取りと共に、構造面や
木材の有効利用の面でもバランス
の取れた設計を心掛けています。

人や家に大切な環境を 再認識する

従来、日本の民家に見られる開放的な間取りの家は、風土や生活の中から必然的に出来上がった間取りだと言え

るでしょう。南に面して大きな開口を設ける事で太陽光と風を取り込み、暖かさと涼しさを得ていました。また同時に、家の耐久性の向上にも大きな役割を果たし、湿度の多い日本では、通風を取ることで柱や梁といった構造上



学び、伝える。



木の家造りを通して見えてくる問題・・・現代住宅事情や自然環境問題、日々の暮らしに関する事柄について、紙面を通し解り易く一般の方にお伝えしていきたいと思って製作しています。暮らしを取り巻く問題は非常に奥が深く、語ると尽きないものではありませんが、出来る限り詳しくお伝えし、読者の方々のここに一石を投じることが出来たら幸いです。毎回の特集では『ここらぼスクール』での最新情報を、更に解り易く砕いてお伝えします。『完成現場報告』では、設計者と建築主の思いや具体的な仕様を掲載。また『日本に暮らす』と名づけた連載では、日本独自の文化や風習などを再認識して現代に活かす工夫をお伝えしています。通信第 2 号から続く『まめまめ放浪記』では、地域の中で信念を持って活動されている方々を編集長まめこが取材し、紹介しています。

ひとつひとつの家庭や暮らしを包む器となるものが「住宅」であるならば、その役割は非常に大きいものと言えます。「住宅を考えること」は、「暮らしを考えること」。そこで私達が一般の方向けに例年行っている講座では、「家造り・暮らし造りに携わる私たちが、今出来る事とはなんだろう？」と考えて一年ごとにテーマを決め、内容を考慮しています。本年度は建築の範囲を超えて農業や工芸の世界まで視野を広げ、各家庭で出来る環境や身体に負担をかけない暮らし方を具体的にお伝えいたします。このスクールを通し、本当に豊かで安全な暮らしとは何かを参加者一人ひとりと考え、人と自然が共に生きる社会へと前進する一歩となれば幸いです。（旧『森と木の家講座』から名前を変更しました。）

ココラボ通信

ここらぼスクール

会社概要

名称 〓有限会社ここら木造建築研究所
設立 〓平成 18 年 4 月 12 日
資本金 〓600 万円
主な仕事 〓木造建築の設計・施工
〓伝統的な構法を主体にした木造建築
住所 〓〒426-0084
静岡県藤枝市寺島 529-1
電話 〓054-646-3678
FAX 〓054-646-3695
HP 〓http://www.kokolab.jp/
Mail 〓office@kokolab.jp
スタッフ 〓

山崎 健治（代表取締役・一級建築士）
古屋 絵理（企画編集・二級建築士）
夏梅 真澄（設計監理・二級建築士）
鈴木 久美子（設計監理）
光菅 雄司（大工）
橋本 宗幸（大工）
山崎 良江（総務）

※当社は地域の職人と共にチームワークを大切に
して、家造りを行っています。

木造についてとことん考えていこう！とスタートした当社も、今年の 4 月で丸 3 年経ちます。ご理解を頂き、家造りを任せていただいたいるお施主さんを始め、職人や山林・製材関係者、また本誌をご愛読いただいている皆様の多大な協力を得てここまで来れたと感謝しております。冒頭にも触れましたが、森林や環境、職人の後継者問題をはじめ、伝統的な構法での家造りにおいても、国の基準や制度から多様な問題が発生しています。今まで当たり前に造られ、日本の長い歳月を経て創られてきた文化が一気に無くなるうとしていくのです。私たちはこれらの諸問題についても、積極的に関わり、声を挙げていきたいと思っています。

今後ココラボでは、今まで以上に、木と人に深く関わり合い、家造りを探求していききたいと思っています。まだまだ未熟な私たちですが、チームワークを大切にしてい日々の仕事、活動に取り組みんでいきたいと思っています。

最後に・・・『ココラボ通信』読者の皆さん！今年は私達と一緒に、木の家の事、日々の暮らしの事について考えてみませんか？今年の講座は、新たに『ここらぼスクール』と改名して、ワークショップ 3 回、専門講座 2 回を開校いたします。少しマニアックな世界ですが、きっと役に立つ情報満載だと思っています。たくさんの方の参加をお待ちしています！（詳細は次ページ以降を参照ください。）
（文／ココラボ 山崎健治）

私達のこれから



伝統的な継手で、丈夫な木組みが作られる。

職人と共に造る。



材の癖まで知って「墨付け」がされる。

ほとんどの材が、大工の手仕事で刻まれていく。

ココラボ事務所に併設している大工小屋。



天竜美林で知られる静岡県浜松市の山から伐り出される杉材。

主要な材料を長持ちさせ、永く住むことの出来る家の仕組みを造りあげてきました。しかし、現代の多くの住宅は耐震性や省エネルギー性を重視するあまり、開口部を最小限に留め、外に閉じた間取りが多いように思います。今と昔では大きく周辺環境や生活が変化し、現在に対応した間取りが必要だと思う中で、人や家にとって大切な環境を再認識して行きたいと思っています。

木材の有効利用と構造計画

上記で開放的な間取りを考えて行きたいと話しましたが、同時に耐震性を

人と人、木と人の深い関わり 合いを大切にしています。

地域の木材で家を造るということは、木材の輸送の上でも無駄が無く環境負荷を低減できるという利点だけでなく、造り手や住まい手が木材に携わる人達と積極的に関わる事ができるという利点もあります。木材は、成育条件や伐採時期・乾燥方法などの様々な条件で変化し、また癖や特性も違っています。それらの木を使って家造りを行うという事は一本一本の木について管理し大切に扱い、それらに合わせた使い方をしていかなければなりません。そう言った地道な作業は、職人の経験や人との信頼の上で成り立っている事で、図面や一定の基準におさめて出来る事ではありません。

当社は、木材は主に天竜流域の杉材を直接買い付け、一本一本の木材検査を行っています。木材検査を行うことで木材の欠点や性質を知り、住宅のそれぞれの箇所に合せた木配り（木材の配置）が出来ると考えています。また、大工の手仕事にこだわりを持ちたいと考え、設計事務所でありながら、事務所の一部を改修して大工の刻み小屋を併設しました。仕事場が近いことで設計者と大工の交流が盛んに行われ、一体となった家造りが行えると考えています。それらの仕事の中で若手大工の育成も試みており、建築専門学校を卒業した 2 名の大工見習いが、技術の習得に励んでいます。

このような取組みは、性能・品質が重視される現代の工業化の中で逆行しているかのようにですが、人と人、木と人の深い関わり合いが大切と思い、実践しています。そして、手間も時間もかかる仕組みを行うことで、逆に無駄のないエコロジーな環境が構築できるだろうと考えています。

考える事を忘れてはいけませんよね。家の間取りは直接家の構造と結びついているので、当然開放的な間取りにはそれに合せた構造的な計画も重要になってきます。構造壁の整理や床剛性と言った、従来の建築基準法などの基準を守る事は当然ですが、木材同士の組合せにより、粘り強い木組みを成立させて行く事を心掛けています。また、構造上必要だからと言ってむやみに大きな木材を使うのではなく、山から搬出される長さや、樹齢や樹種に合った大きさを考え木組みを行う事も、木材を無駄なく有効に使う為にとっても重要な事と考えています。